

第 44～46 回 議会報告会 報告書

彦根市議会議長 上杉 正敏 様

広聴委員会

開催日時	①令和 5 年 12 月 1 日（金） 12 時 50 分～14 時 20 分 ②令和 5 年 12 月 22 日（金） 12 時 50 分～14 時 20 分 ③令和 6 年 1 月 19 日（金） 12 時 50 分～14 時 20 分
開催場所	滋賀大学 校舎棟 2 階 7 番教室
出席議員	議員氏名 ①馬場委員長、安澤委員、長崎委員 ②伊藤副委員長、奥野委員、小川 隆史委員 ③馬場委員長、角井委員、森田委員
参加者数	①16 名 ②14 名 ③16 名
内容および考察	①「自分が“選ぶ”とはどういうこと？」 12:50 開始 13:10 質問ゲーム 13:25 哲学対話 14:14 ふりかえり ①三人の議員がそれぞれに、選ぶことについて、自己紹介を兼ねて話す ・選ぶことの自己責任、考えが違う、支援者の応えを一つにまとめきれない ・様々な意見を聴き、市民にとってプラスかマイナスかで選択する ・信念・価値観で意思決定する ②アイスブレイクの役割を果たす学生からの質問タイムでは ・好きな食べ物は ・若い人に求めているものは？ ・彦根市内のおススメスポットは？ 等の質問あり ③柴田先生より 一つの答えを創る場ではないこと フラットな関係性で 考える時間にして 知識ではなく理解や感情で話そう

④本題の「自分が選ぶこととは？」に移行し、それぞれな意見を述べ合う
選ぶこと、選んだことは？

気軽な選択、自分にとって大事な選択って？

大学選択、選択した結果、最終的に迷わなくなった

失敗を糧にできる

「やらない後悔より、やった後悔がいい」

やりたくないことを選ぶ効用もあるかも

失敗や成功より、過程が楽しければいい

Q 選ぶことと選ばないこと

政治、24人の中で考え方や価値観が同じ人を選ぶ

18歳だが関心や興味がないわけではないが行動に移せない

選挙の手伝いで体験していたから

一票の重さは感じない「軽いなあ」と

住民票を移してないから

メリットがあるから選ぶ

Q 議員としての選択は？

期待を受け選挙の応援をする

期待通りの仕事で選んだ感

自分で選んだようで思った選択も実は自分で選んでないこともある

流れに逆らうこと、流れに従うこと、どちらも選んだ感がある

選挙の推し活は一緒に行動すること

⑤まとめとして感想を述べあう

対話、楽しかった

選択の怖さを感じた

政治の推し活は危険

本質を見る力、相手を大切に作る、人として繋がれる

みんなと一緒にだと安心

選ぶための操作されてる

人と違うこと、合わせることも選択

選挙推しがいない、選ぶ怖さを感じる

考察として

「哲学対話」の硬いイメージで始まった学生たちとの会話でしたが、好みの食べ物等の議員への質問でアイスブレイク。

その後は、フラットな立場で思うことを自主的に発言することになり、私たちにとっては若者の本音がダイレクトに聞かせていただける機会になり、学生の皆さんにとっては市議会議員って、人間らしくて身近な存在なんだと想像していただけなのではないか。

政治への興味関心を持ってもらうことに繋がったかも知れない。

連続講座の中間地点での議員との対話であったことで、既に自分の意見を自由闊達に述べることのトレーニングが一定できていたことも、活発な対話に役立

ったと感じる。

今回の哲学対話を通じて、政治や政治家に関心を持ってもらうことが選挙への考え方にも波及し、投票行動にとどまらず、選ばれる側も担ってもらえたら素晴らしいことだとも感じる。

直弼公の茶道の言葉にある「一期一会」。今、この時、この瞬間は二度と戻らない。

同じ時を共有し、胸襟を開いて対話できたことのご縁、否、奇跡に感謝したい。

②「みんなの幸せと自分の幸せ」

12:50 開始

13:10 質問ゲーム

13:24 哲学対話

14:10 ふりかえり

まずは本題に入る前に議員は初めての参加になる為、議員の自己紹介から始まる。

議員の自己紹介の中で、議員として大事にしていることについて言及があり、そのまま議員に以前より質問したかった事について学生から質問があり、そのまま本題に入った。

以下主な意見を記す。

- ・両方迫及すると上手くいかない。バランスが重要
- ・みんなの幸せと自分の幸せは両立しない
- ・日本人はみんなの幸せといいながら、自分の幸せをないがしろにしている自分の幸せを考えてほしい
- ・誰かのために行動するのが好き ⇒それをすることが自身の満足かと思う
- ・ゼロサムでない。海外は個人の要望強い。日本はある程度コントロールされている

みんなの為があるから個人の幸せがある。どちらも大切

- ・個人の幸せをいうのはわがままでは
- ・自分のしたい事だけすすめるとパワハラ
各人の矢印を大きく一つの方向にすることが大事
- ・個人が自由にしたい事ができることが幸せ
- ・多様性が認められることが重要
- ・我慢していると思う状態に身をおいてみたら、新たな幸せがあった。(仕事を子どもの為に辞めてみたら)
- ・夫婦フルタイムで子供を保育園に預けていた。迎えにいくといつも一人ポツンと待っていた。成人になってその時のことを「ごめんな」と謝ると、子供(成人になった)は「ごめんって何？」と返ってきた。幸せは人によって違う
- ・ニーズがかなわない→不幸せとは思わない

ニーズがかなう → 幸せと思わない

- ・ 幸せと言葉に出して言うことが幸せ
- ・ 青空のもと洗濯を干した瞬間幸せ
- ・ 自由 自分がやりたい事をできる事が幸せ
- ・ 若者 満たされている → 政治に興味ない
- ・ お風呂に入ると幸せ。お風呂に入りたいときに入る生活ができる基盤をつくるのが大切。その基盤づくりが政治。
- ・ 「幸せ」は、私にとって最上位の言葉。最上位のことの特別なことにしか使えない。幸せは一つだけ。私にとって、些細な幸せは「幸せ」とは別の言葉。
- ・ 「まじ最悪や」と頻繁に使用する言葉だが、実際は本当に悪い状態ではない。幸せは後からしか解らない。友人と食事して幸せは、気分よかったという意味の言葉。

まとめ

- ・ 人それぞれの幸せがある
- ・ 足るを知る
満たされていると感じるとき ← 年齢が高いからでは（学生より）
- ・ 優越感
- ・ 幸せについて考える機会をもらい幸せ → 幸せは感じ方なんだろうな
- ・ 人との比較を考えると解らなくなる
- ・ 幸せという人という人になると幸せになる
- ・ 犯罪とかしなかったら自由にしたい事ができる状態が幸せでは

考察

学生と議員はフラットに話せ、異年代の幸せについての会話であった。冒頭は少し議員についての話しもあったが、「幸せ」について話してから個人としての考えを話し合う場所になった。学生の感じ方を聞きながら、自分自身の学生時代をみているようで懐かしくも思った。ある学生が指摘したように、学生以外の参加者が口にした生活の中で感じるささいな幸せとは、年齢を重ねた為を感じる幸せなんだろうなとも思う。学生たちが、些細な事に幸せを感じるものなんだなあ頭では理解し「幸せ」をまとめようとした時に「人との比較」の視点を持ち込んだ途端にどう考えてよいか混乱するという様子も、私の学生時代でも同じだったんだろうなとう。最後の一言の場で「人との比較」と自身の幸せは全く関係がなく、その比較の視点は不要であると常々感じている事であったため「人との比較」は不要と発言させて頂いた。今回は、議員、学生としてではなく各々個人として異世代間で幸せについて語る場であったことは間違いない。学生さん達に、幸せが身近なものを感じる機会となったならば幸いに感じる。

学生さん達と幸せについて話すという貴重な機会を頂くことができた。若者が幸せを感じ希望をもち日々暮らす社会になるよう、この経験を政治の場で活かしていきたいと思う。

③「私たちはどう生きるか」

12:50 開始

13:06 質問ゲーム

13:16 絵本「なんだろうなんだろう」を使用したアイスブレイク

13:20 哲学対話

14:11 ふりかえり

自己紹介

アイスブレイク

質問ゲーム、なんだろうなんだろう

柴田先生から本日のルール説明

- 1 何を言ってもいい
- 2 人の言うことに対して否定的な態度をとらない
- 3 発言せず、ただ聞いているだけでもいい
- 4 お互いに問いかけるようにする
- 5 知識ではなく、自分の経験に則して話す
- 6 話がまとまらなくてもいい
- 7 意見が変わってもいい
- 8 分からなくなってもいい
- 9 同じ立場、目線で発言する

本題

「私たちはどう生きるか？」テーマとして大きいので着眼点を変える

- ・なぜどう生きるか決めないといけないのか
- ・普通ってなに
- ・人間って何だろう
- ・いつまでどう生きるか
- ・なぜ生き方の形が形成されたのか
- ・誰基準で考えるのだろう
- ・なぜ人は考えるのか
- ・最終ゴールをどう決めるか
- ・なぜ私たちは生きるのか
- ・いつ決めるのがいいのか
- ・流行り、廃りがあるのはなぜ
- ・なぜ生き方の形が形成されたのか？普通ってなに？

投票にて下記サブテーマを進めることに決定

☆なぜ生き方の形が形成されたのか？普通ってなに？

- ・自分が普通にとらわれ過ぎ
- ・普通がぶれてきている
- ・まとめたがらない
- ・普通の反対を異常と考えるか特別と考えるか
- ・みんな普通よりちょっと上を目指している
- ・高校は義務教育ではなく自分の意志で決めたので行くべき
- ・普通は環境によって変わる
- ・普通が最低限
- ・高校でいう普通科は選択肢が広がる
- ・普通でもいいんじゃない
- ・普通=安心
- ・ついつい普通を選んでしまう

まとめ

- ・普通から外れたとしてもまた違う普通がある
- ・平易にざっくばらんにしゃべれた
- ・このテーマは簡単に答えが出ない
- ・皆さんの話を聞くことが大切だと感じた
- ・カレーライスの話が実体験も交えて分かりやすかった
- ・普通について深く考えられた（考えることが大切）

考察

哲学対話というイメージで当日、臨んだのもっと硬いイメージかと思いましたがアイスブレイクの時間がありリラックスして会話することが出来ました。本題は「私たちはどう生きるか？」でしたがサブテーマを設定し「なぜ生き方の形が形成されたのか？普通ってなに？」について皆さんで意見交換をしました。

普通について様々な意見が出てなかでも「普通から外れたとしてもまた違う普通がある」や「普通は色々あって、カレーライスを事例に彼女はじゃがいもは小さくして入れるのが普通で、自分はじゃがいもを大きくして入れるのが普通で大喧嘩になった」事例を交えて紹介してくれて『普通』の定義について自分の中でも最後には少し変わっていました。

学生の方々と会話する貴重なお時間を頂きありがとうございました。

若い方と話す機会というのが非常に勉強になったし、広聴委員会4年間の中の1年目の取り組みとしては非常に良かった。広聴というのは何回もして、いろいろやり方を変えていく方が、より効果が出ていくのではないかな。若い世代との交流を今回単発で終わらすのか、継続するのか議論をしないといけない。広

く意見を聞くという意味で、アンケートをするのも1つの方法としてありだが、令和6年度は市民の方が何を思っておられるか、どういふことを市に対してあるいは議会に対して望んでおられるか把握するための活動をするということを進める。